

(平成29年5月22～30日)

労働安全衛生法の一部改正

平成28年6月1日施行

化学物質リスクアセスメント実施の義務化

岡山大学における

化学物質リスクアセスメント実施と報告・確認システム

【問い合わせ先】

安全衛生推進機構HP

(<http://d-eshi.anei-k.okayama-u.ac.jp/>)

「お問い合わせ」からご連絡下さい。

SDSに関する国内法（H29年3月末時点）

SDSを義務付けしている法律は、以下の3つある。

- ・労働安全衛生法（略称：安衛法）
- ・化学物質排出把握管理促進法（略称：化管法）
- ・毒物及び劇物取締法（略称：毒劇法）

該当法令	対象物質数	内訳
安衛法	640 (+27)	640(平成28年6月) + 27(平成29年3月追加)
化管法	562	第1種指定化学物質(462)、第2種指定化学物質(100)
毒劇法	130	毒物(28)、劇物(93)、特定毒物(9)
毒劇指定令	596	毒劇法別表以外の指定 毒物(112)、劇物(474)、特定毒物(10)

ただし、同一事業者に同一の指定化学物質を継続的または反復して譲渡・提供する場合、受領者から請求された場合を除き、既にSDSが提供されている場合、SDSの提供を省略することができる。

化学物質のリスクアセスメントの実施

実施の対象

岡山大学では、次に掲げる対象化学物質について、リスクアセスメント(CRA)を実施する。

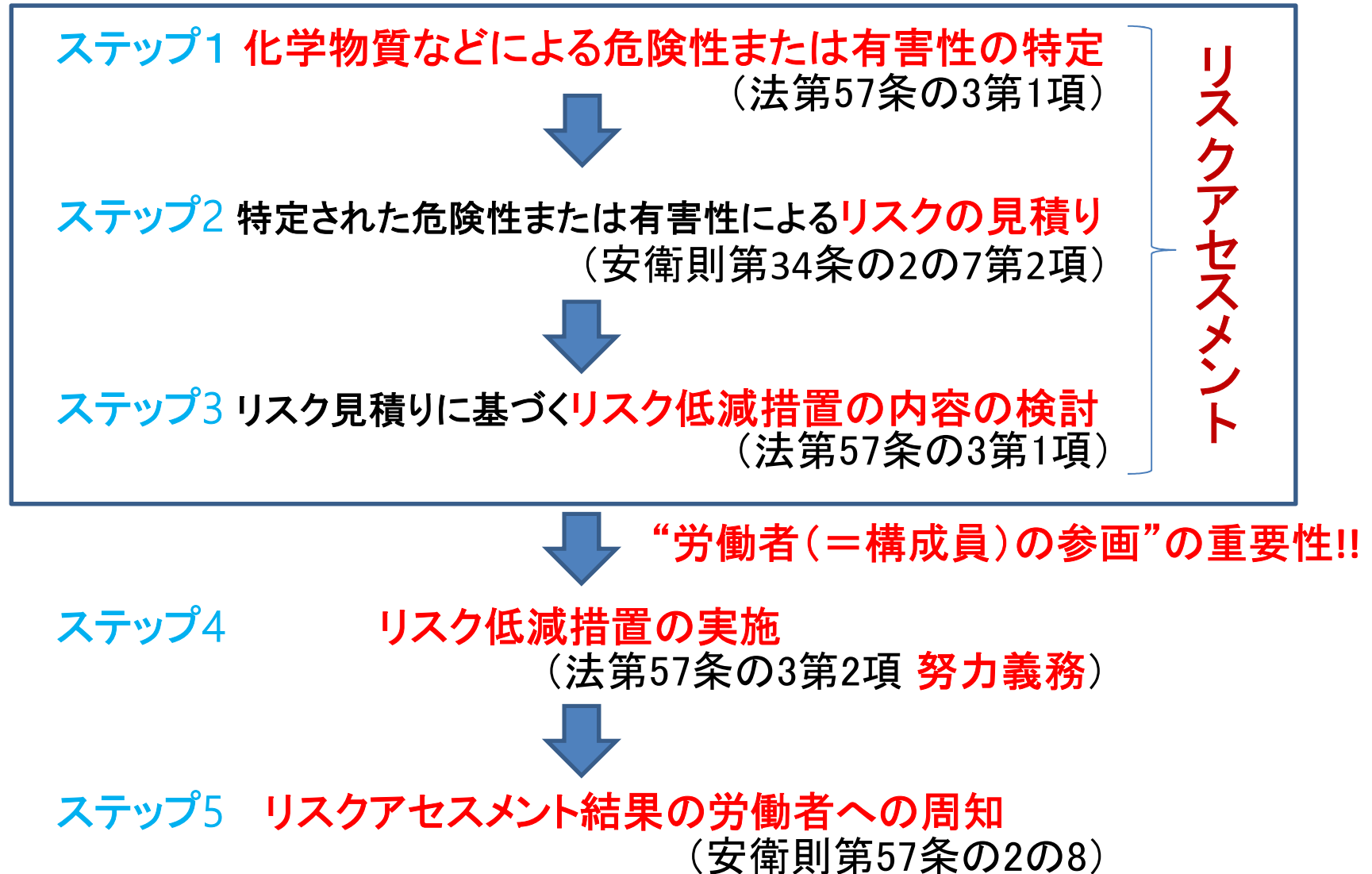
- ① 一定の危険性や有害性のある663(+α)物質の使用前
- ② 対象物質の作業方法や手順を新規採用または変更時
- ③ 現在使用している物質でも過去にCRA結果がない

なお、在庫のみで上記の対象物質の使用予定がないものについては、CRA実施はしなくてよい。但し、使用開始する際には、必ず事前にCRAを実施する。



使用量・使用頻度が多く、危険性・有害性の高い物質を優先

リスクアセスメント実施の流れ



リスクアセスメントは、**実験計画および準備の時に**

(研究)実験の発想



(研究)実験の計画と準備

(研究)実験手法
の検討・選択

(研究)実験に
必要物の調達

(研究)実験の
器具・装置の設置

リスクアセスメント実施

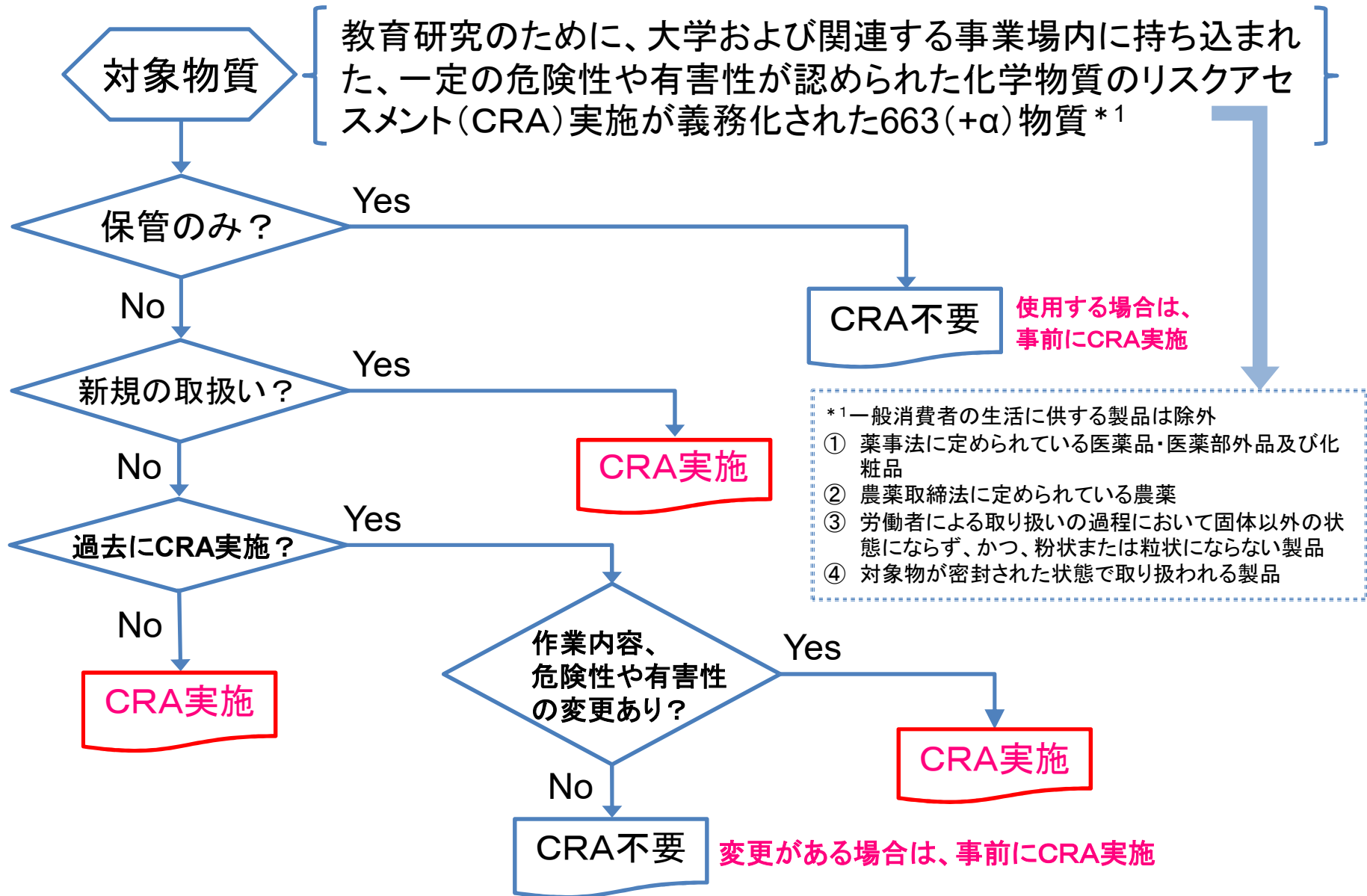


予備の(研究)実験



本(研究)実験

化学物質リスクアセスメント実施のフローチャート

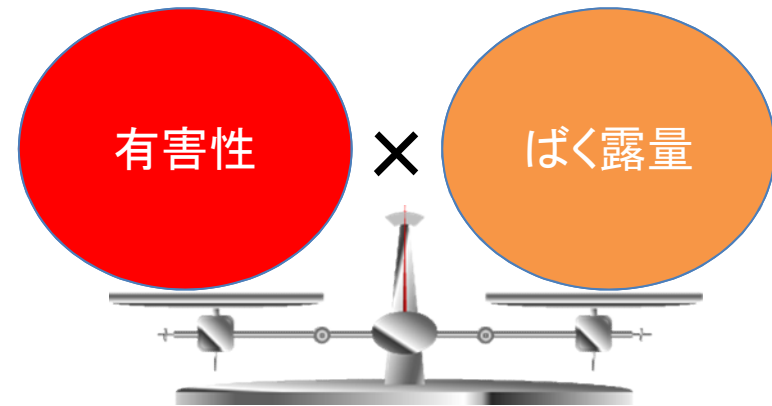


化学物質のリスク管理の基本

化学物質の人体へのリスクの大きさは、「有害性^{*1}」の強さと「ばく露^{*2}」の量で決まります。

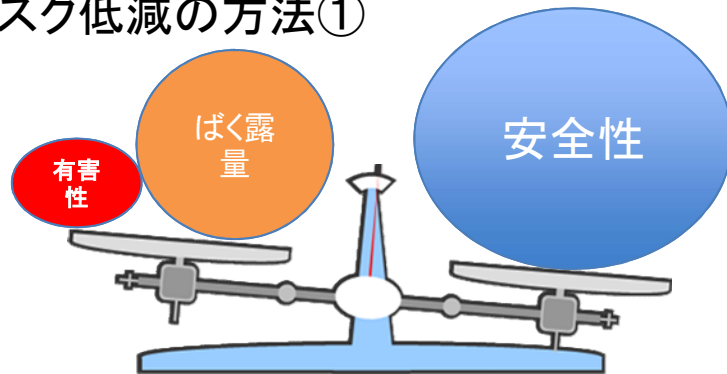
*1有害性: 悪影響の度合い。

*2ばく露: さらされる、吸ったり、触れたりする事。

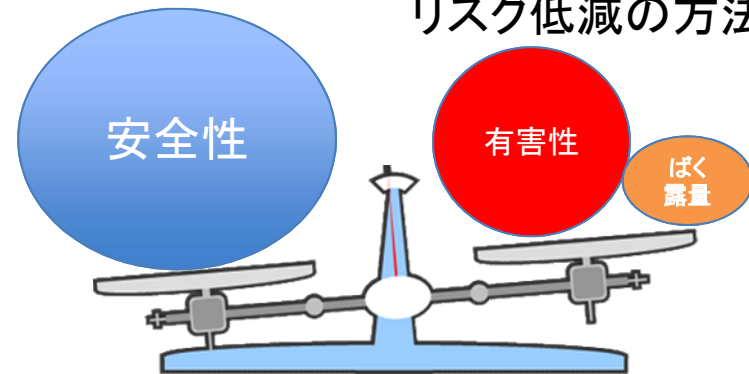


「化学物質のリスク管理」の2つの要素

リスク低減の方法①



リスク低減の方法②



①ばく露量の大きい用途では、有害性をどのくらい小さくするか。⇒有害性の低い代替品への転換

②有害性の高い化学物質は、できるだけばく露しないようにする。⇒有害物質の強制排気や保護具の着用

化学物質のリスク評価ツール活用のための準備

A: 対象化学物質の危険性(ハザード)の情報

B: 対象化学物質の使用方法(⇒ばく露)の情報

A: SDS(16項目)から情報を入手する。

1. SDSの“危険有害性の要約(項目2)”の**GHS分類**
2. SDSの“物理的及び化学的性質”(項目9)の**沸点**

B: 対象化学物質を使用している現場における、

1. 正味の**使用量、使用時間**
2. 実際の**換気(設備)方法、保護具**の使用
について特定する。

A, Bの情報から、
下記のリスクアセスメント支援ツールを活用する。

- ① コントロールバンディング
- ② 福井大学版
- ③ 筑波大学版
- ④ BIG Dr.(ビッグドクター)
- ⑤ その他

なお、「⑤その他」の方法で、リスクアセスメントを実施した場合は、そのリスク評価方法の内容説明と判定結果を報告書に記載する。

SDSの活用(化学物質のリスクアセスメント)

1. 化学品及び会社情報	
製品名	アセトン
製品コード	010-00341, 016-00346, 014-00347, 012-00348
CAS No	67-64-1
化学式	CH ₃ COCH ₃
製造者	和光純薬工業株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号: 06-6201-5964
供給者	和光純薬工業株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号: 06-6201-5964
緊急連絡電話番号 推奨用途及び使用上の制限	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 試験研究用
2. 危険有害性の要約	

1. 化学品及び会社情報	
製品名	二硫化炭素
製品コード	038-01240, 038-01241, 034-01243
CAS No	75-15-0
化学式	CS ₂
製造者	和光純薬工業株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号: 06-6201-5964
供給者	和光純薬工業株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号: 06-6201-5964
緊急連絡電話番号 推奨用途及び使用上の制限	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 試験研究用
2. 危険有害性の要約	

GHS分類	区分2
物質又は混合物の分類	区分2
引火性液体	区分2B
吸引性呼吸器毒性	区分2B
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
皮膚刺激性	区分3
特定臓器毒性(単回暴露)	区分3
区分3 気道刺激性, 麻酔作用	
特定臓器毒性(反復暴露)	区分2
区分2 血液	

絵表示



注意喚起語

危険

目に対する損傷 区分2B
生殖毒性 区分3

危険有害性情報

H225 - 引火性の高い液体及び蒸気
H305 - 飲み込んで気道に入ると有害のおそれ
H320 - 眼刺激を起こす
H335 - 呼吸器への刺激のおそれ
H336 - 眠気やめまいのおそれ
H361 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H373 - 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じるおそれ: 血液

注意書き(安全対策)

GHS分類	区分2
物質又は混合物の分類	区分3
引火性液体	区分2A
急性毒性-吸入(蒸気)	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1B
生殖細胞変異原性	区分1, 区分2, 区分3
生殖毒性	
特定臓器毒性(単回暴露)	
区分1 中枢神経系	
区分2 心臓	
区分3 気道刺激性, 麻酔作用	
特定臓器毒性(反復暴露)	区分1
区分1 中枢神経系, 心血管系, 腎臓	
水生環境有害性(急性)	区分2
水生環境有害性(長期間)	区分2

絵表示



注意喚起語

危険

目に対する損傷 区分2A
生殖毒性 区分1B
特定臓器毒性 区分1~3

H225 - 引火性の高い液体及び蒸気
H319 - 強い眼刺激をおこす
H331 - 吸入すると有毒
H341 - 遺伝性疾患のおそれの疑い
H360 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H335 - 呼吸器への刺激のおそれ
H336 - 眠気やめまいのおそれ
H401 - 水生生物に毒性

リスクレベルの見方とその対応

← リスク大

リスク小 →



上記のリスクレベルでの健康影響：遺伝性疾患・発がん性のおそれの疑い + 目・皮膚の障害
(5、4、3、2、1) + (S) ⇒ **3&S (例示:リスク評価の結果)**



:リスクレベル小:許容範囲

(対応)追加のリスク低減措置は不要であるが、コスト効果の優れた、又はコストのかからない低減策の実施



:リスクレベル中程度:許容限界

(対応)リスク低減対策を実施する期限を決め、期限内にリスク低減策を実行する。



:リスクレベル大:許容オーバー

(対応)リスク大の業務に対して、リスク低減措置を講ずる。また、やむを得ず対象の業務を行う場合で、リスク低減措置の実施に時間を要する場合には、暫定的なリスク低減措置を講じる。

岡山大学における化学物質リスクアセスメントの実施方針

岡山大学は、平成28年6月1日に施行された「化学物質のリスクアセスメント」の義務化を受けて、以下の実施方針に基づき、本学において取り扱う化学物質による事故や健康障害を防止するために、**化学物質のリスクアセスメントを実施**する。

1. 本学は、厚生労働省が指定する化学物質及び本学がその危険性や有害性があると認めた化学物質(以下「対象化学物質」という。)について、その**使用前に、リスクアセスメントを実施**する。
2. 本学は、化学物質を使用する者(使用予定がある者を含む。以下「化学物質使用者」という。)を対象として、**定期的に化学物質のリスクアセスメント教育を実施**する。
3. 化学物質使用者は、対象化学物質を使用する前に、**リスクアセスメントを実施し、実施報告書を作成**し、化学物質を管理する単位(以下「化学物質管理単位」という。)における**責任者**(以下「化学物質管理責任者」という。)に**提出**すること。なお、化学物質リスクアセスメント評価手法及び実施報告書の様式については、別に定める。
4. **化学物質管理責任者**は、以下を実施する。
 - ① 保有する対象化学物質の**セーフティデータシート(SDS)**を、化学物質管理単位で**閲覧可能な状態で保管**すること。
 - ② 化学物質使用者が作成した**リスクアセスメント実施報告書を確認**するほか、その内容について責任を負うこと。
 - ③ **実施報告書**を化学物質管理単位内の化学物質使用者へ周知し、**閲覧可能な状態で保管**すること。
 - ④ 実施報告書の写しを**安全衛生推進機構に提出**すること。
 - ⑤ **リスクアセスメント実施件数を毎月**、化学物質管理単位を統括する**部局長に報告**すること。
 - ⑥ リスクアセスメント結果に基づき、**リスク低減が必要**と判断した場合は、**リスク低減措置を実施**すること。
5. 部局長は、化学物質管理責任者からリスクアセスメント実施件数について報告を受け、所属事業場の**安全衛生委員会にリスクアセスメント実施件数について議題提出**する。

岡山大学の化学物質リスクアセスメント実施報告書(記入事項)

* 事業場名	: 津島、鹿田、三朝など
* 部局名	: ** 研究科(理)など
* 化学物質管理単位の名称	: ** グループ、** 研究室など
* リスクアセスメント実施者	: 教職員、学生などの氏名
* 化学物質管理責任者	: 化学物質管理単位長の氏名
* 建物名	: 工学部1号館など
* 室名	: ** 号室など
・ 排気方法(設備)	: [局所排気・全体換気・無]の選択
➤ リスクアセスメント実施日	: 日付
※ 化学物質名	: 日本語名
※ Name	: 英語名
※ CAS No.	: Chemical Abstracts Service 番号
対象物質の使用作業名	: 「****の合成-a-0001」など
➤ 使用開始日	: リスクアセスメント実施後の日付
・ SDS確認	: [有・無]の選択
・ 局所排気装置利用	: [有・無]の選択⇒排気操作の確認
・ 安全メガネ・手袋の着用	: [有・無]の選択⇒保護具着用の確認
・ 作業環境測定の実施	: 管理区分

岡山大学 化学物質のリスクアセスメント 実施報告・確認システム

岡山大学「リスクアセスメントワーキング(化学物質)」において、決定された実施方針に基づいて、実施報告および確認の作業をサポートするために製作したリスクアセスメント実施支援システムです。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

<https://ora-chem.anei-k.okayama-u.ac.jp/ora/>

H29年6月1日から試行開始、9月1日から本運用開始

なお、このシステムの利用は、岡山大学統合認証(シングルサインオン)システムを経由して使用可能になります。

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム①

全体の流れ

化学物質管理責任者:メンバー登録と追加



化学物質管理単位メンバー:作業場所等の登録

化学物質管理単位メンバー:リスクアセスメント実施・登録

化学物質管理責任者:リスクアセスメント実施・登録の内容確認
(承認または却下)



化学物質管理責任者:リスクアセスメント実施報告書の最終登録
(報告書の書き換え不能)



管理単位メンバー:リスクアセスメント最終報告の確認

化学物質管理責任者:リスクアセスメント報告書の確認状況の把握

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム②

① 研究室責任者は研究室単位と構成員の確認するために、

[**管理単位・メンバー追加**]をクリックして下さい。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名：宮崎 隆文

ホーム

ホーム（化学物質管理単位責任者）

報告書新規作成 報告書確認 本人情報確認

管理単位・メンバー追加 報告書リスク低減策・記載 報告書確認状況

①

システム管理者からのお知らせ
全学お知らせ
0516:テスト用のマスターデータに(t)を加えますのでご了解ください(あきよし)
0517:事業場、部局、フロア、建物マスタについて本番データUPしました(あきよし)

(t)宮崎研究室2からのお知らせ [編集](#)
実験開始前には必ず化学物質のSDSを確認しましょう！

(t)宮崎研究室からのお知らせ [編集](#)
安全とは、「危険の全くない状態＝絶対安全」ではなく、「許容できないリスクがない状況」をいう。

テスト用メニュー
[更新履歴](#)
[システム管理者設定](#)（※テスト用に権限の付け外し可）

ここにして検索

岡山大学化学物質... 岡大CRA実施ガイド... 岡山大学の化学物... 設定

15:10
2017/05/18

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム③

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名: 宮崎 隆文

ホーム > 管理単位・メンバー追加

管理単位・メンバー追加

2件中、1件目から2件目を表示中。

化学物質管理単位の名称	部局名	責任者氏名	メンバー数
(t)宮崎研究室2	(t)その他	宮崎 隆文	5人
(t)宮崎研究室	(t)理学部	宮崎 隆文	4人

表示数 30

② 管理単位の名称、部局名、責任者氏名、メンバー数を確認して下さい。

③ [詳細] をクリックすると、管理単位の構成員などの情報が開きます。

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム④

④ 管理単位の詳細を確認して、所属メンバーの未登録がありましたら、

〔 所属メンバー情報 更新画面へ 〕 をクリックして下さい。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名: 宮崎 隆文

ホーム > 管理単位・メンバー追加 > 管理単位・メンバー追加 詳細

管理単位・メンバー追加 詳細

2件中、1件目を表示中。

所属メンバー情報 更新画面へ 検索画面へ 前へ 次へ

化学物質管理単位情報

化学物質管理単位の名称	(t)宮崎研究室2
部局名	(t)その他
責任者氏名	宮崎 隆文
責任者所属	研究所・センター等 安全衛生推進機構
責任者職名	教授

所属メンバー情報

システムID	氏名	利用者種別	学年	学生番号
pdk181yh	宮崎 隆文 (責任者)	教員		
p3vk1udk	明石 正	職員		
pdoq42mc	池尻 孝治	職員		
pn7r5lyw	大島 康男	職員		
pz2j37tp	恒國 昭二	職員		

部屋情報

事業場名	建物名	フロア名	室名
(t)津島	(t)本部棟	(t)3階	(t)安全衛生推進機構事務室

※作業を行った事がある部屋を表示しています。

15:15 2017/05/18

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑤

⑤ 所属メンバーの氏名を記入(検索)した後、[**追加**]を押して追加登録して下さい。

⑥ 責任者代行者の指定は、チェックの後、[**チェックしたメンバーを責任者代行にする**]を押して下さい。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名：宮崎 隆文

ホーム > 管理単位・メンバー追加 > 管理単位・メンバー追加 詳細 > 所属メンバー情報 更新

所属メンバー情報 更新

詳細画面へ戻る

追加メンバー情報

追加先 化学物質管理単位の名称 (t)宮崎研究室2 **⑤**

※システムIDや氏名等の情報を入力すると追加メンバーの候補が表示されます。

登録済メンバー情報

	システムID	氏名	利用者種別	所属	学年	学年番号
	pdk181yh	宮崎 隆文 (責任者)	教員	研究所・センター等 安全衛生推進機構		
<input type="checkbox"/>	p3vk1udk	明石 正	職員	役員・事務部等 安全衛生部 保健衛生管理課		
<input type="checkbox"/>	pdoq42mc	池尻 孝治	職員	役員・事務部等 安全衛生部 安全管理課		
<input type="checkbox"/>	pn7r5tyw	大島 康男	職員	役員・事務部等 安全衛生部 安全管理課		
<input checked="" type="checkbox"/>	p221371p	恒國 昭二 ⑥	職員	役員・事務部等 安全衛生部 保健衛生管理課		

チェックしたメンバーの削除 **チェックしたメンバーを責任者代行にする**

“責任者代行者”とは、管理責任者が[報告書の確認]できないときに、これを代行する者。

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑥

⑦ リスクアセスメント対象物質を取り扱う者は[**報告書新規作成**]をクリックして下さい。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名：宮崎 隆文

メニュー

メニュー（化学物質管理単位責任者）

報告書新規作成

報告書確認

本人情報確認

⑦ 化学物質管理単位の管理

報告書リスク低減策・記載

報告書確認状況

システム管理者からのお知らせ
全学おしらせ
test 0509

宮崎研究室2からのお知らせ [編集](#)
実験開始前には必ず化学物質のSDSを確認しましょう！

宮崎研究室からのお知らせ [編集](#)
安全とは、「危険の全くない状態＝絶対安全」ではなく、「許容できないリスクがない状況」をいう。

テスト用メニュー
[更新履歴](#)
[システム管理者設定](#)（※テスト用に権限の付け外し可）

WebとWindowsを検索

8:50
2017/05/15

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑦

⑧ 対象物質を使用する管理単位情報を選択して、作業場所情報を入力して下さい。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ホーム > 管理単位情報選択

管理単位情報選択

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名: 宮崎 隆文

ホーム > 管理単位情報選択 > 作業場所選択

作業場所選択

作業場所の情報を選択してください。

管理単位情報

部局名	化学物質管理単位の名称	責任者氏名
(t) その他	(t) 宮崎研究室 2	宮崎 隆文

管理単位情報選択画面に戻る

作業場所情報 (過去の作業履歴から選択)

事業場名	建物名	フロア名	室名
(t) 津島	(t) 本部棟	(t) 3階	(t) 安全衛生推進機構事務室

※この管理単位で作業を行った事がある部屋を表示しています。

作業場所情報 (新規場所選択)

事業場名	(t) 津島
建物名	(t) 本部棟
フロア名	(t) 3階
室名	安全衛生推進機構事務室

選択 リセット

※絞り込み先が1件の場合は自動選択されます

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑧

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ホーム > 管理単位情報選択 > 作業場所選択 > 報告書新規作成

化学物質のリスクアセスメント実施報告書

実施報告書の内容を入力してください。

事業場名	(t)津島	部局名	(t)理学部	化学物質管理単位の名称	(t)宮崎研究室
化学物質利用(リスクアセスメント実施)者		氏名	宮崎 隆文		
化学物質管理責任者		氏名	宮崎 隆文		
作業場所	建物名	(t)2号館		局所排気設備の有無	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	室名	(t)102			
化学物質名	<input type="text"/>			CAS No.	<input type="text"/>
リスク評価対象物質の使用作業名		TTFへの付加反応-a-0001		使用開始日(YYYYMMDD)	カレンダーから選択
SDS確認の有無		<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		局所排気設備使用の有無	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
保護手袋使用の有無		<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		安全眼鏡着用の有無	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
SDS検索サイト		http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx http://www.jcia-net.or.jp/pj_search.php			
作業環境測定の実施(管理区分)		<input type="radio"/> なし (<input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3)			
リスクアセスメント実施手法					判定
<input type="checkbox"/>	厚生労働省 (ILO 100T)	http://anzeninfo.mhlw.go.jp/ras/user/anzen/kag/ras_start.html			(チェックをすると表示されます)
<input type="checkbox"/>	福井大学 (新JISHA方式等)	http://roukan2.ad.u-fukui.ac.jp/risk_assessment/RA_system.php?type=site0			(チェックをすると表示されます)
<input type="checkbox"/>	筑波大学 (新JISHA方式)	本法のリスクアセスメント実施(希望)者に行方ファイル配布			(チェックをすると表示されます)
<input type="checkbox"/>	日本化学工業協会 (ECETOC TRA)	http://www.jcia-biadr.jp/jcia-biadr/top			(チェックをすると表示されます)
<input type="checkbox"/>	その他	(チェックをすると表示されます)			(チェックをすると表示されます)

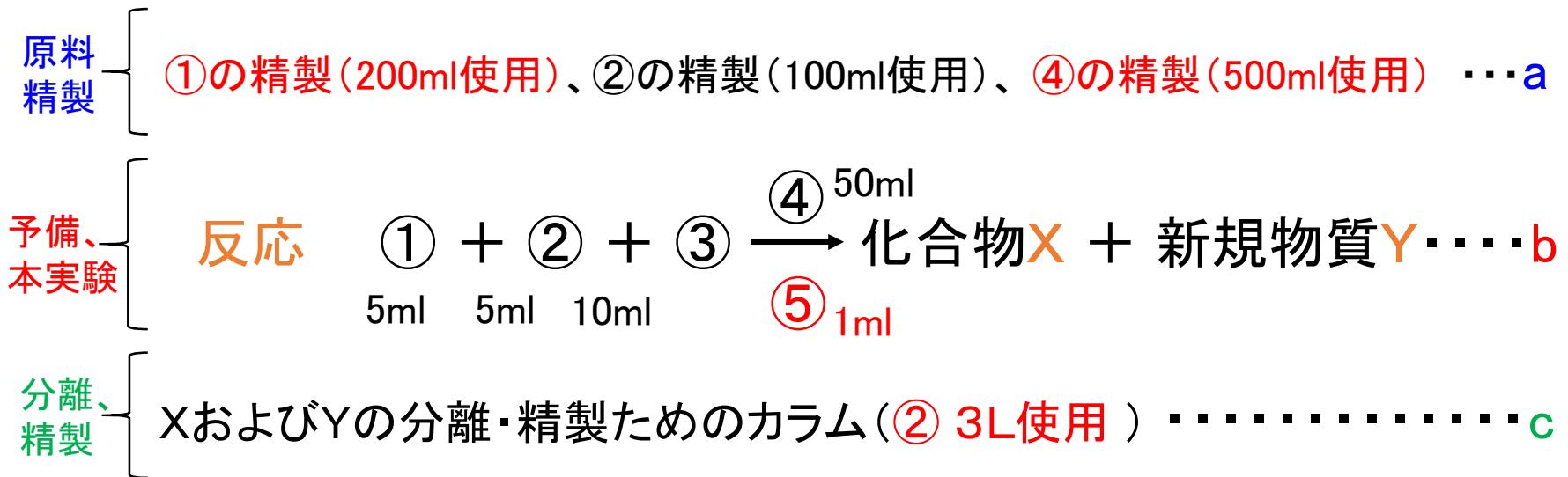
作業場所選択画面に戻る 登録確認画面へ進む

- ⑨局所排気設備の有無、⑩(対象)化学物質名-英語名-CAS No.の入力、⑪作業名(+記号+番号)、⑫使用開始年月日、⑬SDS確認の有無(参考:検索サイト)、⑭保護手袋使用の有無、⑮安全眼鏡着用の有無、⑯作業環境測定実施の有無、⑰管理区分(1・2・3)、⑱リスクアセスメント実施手法の選択、⑲リスク評価結果 ⇒ すべての入力の確認画面へ進む

ある化学物質の合成実験の場合

タイトル: 新規化合物Xの合成

【化合物Xの合成実験で使用する化学物質】 ①原料A(化学物質): 対象物質=毒性高、
②原料B(化学物質): 対象物質=毒性中、③原料C(化学物質): 非対象物質=毒性低、
④溶媒D(化学物質): 対象物質=毒性中、⑤触媒E(化学物質): 対象物質=毒性極高



リスクアセスメント対象物質を使用する作業において、危険・毒性の高い(⑤: タイトル-b-0001)と(①: タイトル-a-0002)および使用量の多い(②: タイトル-c-0003)、(④: タイトル-a-0004)を優先してリスクアセスメントを実施する。

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑨

⑳ 化学物質管理責任者は、
提出された報告書を確認した後、**[リスク低減措置入力画面へ]**をクリックして下さい。

岡山大学化学物質リスクアセスメント報告・確認システム

ログイン者氏名：宮崎 隆文

ホーム > 報告書リスク低減策・記載 > 報告書リスク低減策・記載 詳細

報告書リスク低減策・記載 詳細

1件中、1件目を表示中。

⑳ リスク低減策入力画面へ 検索画面へ 却下する 前へ 次へ

報告書ID		24	報告書作成日		平成29年5月15日
事業場名	(t) 津島	部局名	(t) 理学部	化学物質管理単位の名称	(t) 宮崎研究室
化学物質利用(リスクアセスメント実施)者			氏名	宮崎 隆文	
化学物質管理責任者			氏名	宮崎 隆文	
作業場所	建物名	(t) 2号館			
	室名	(t) 試料調製室			
化学物質名	メタノール	局所排気設備の有無		無	
Name	Methanol	CAS No.	67-56-1		
リスク評価対象物質の使用作業名	HMTTFの置換反応-a-002		使用開始日	平成29年5月29日	
SDS確認の有無	有		局所排気設備使用の有無	無	
保護手袋使用の有無	無		安全眼鏡着用の有無	無	
作業環境測定の実施(管理区分)			I		
リスクアセスメント実施手法					判定
筑波大学(新JISHA方式)		本法のリスクアセスメント実施(希望)者Iに実行ファイル配布			III & S
責任者確認状況		未確認			

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑩

⑳ 化学物質管理責任者は、提出された報告書を確認した後、
[リスク低減策とその実施内容]を記入して下さい。最後に、保存ボタンを押して下さい。

<input type="checkbox"/>	厚生労働省 (ILU 1001)	http://anzeninfo.mhlw.go.jp/ras/user/anzen/kaz/ras_start.html	(チェックをすと表示されます)
<input type="checkbox"/>	福井大学 (新JISHA方式等)	http://roukan2.ad.u-fukui.ac.jp/risk_assessment/RA_system.php?type=site0	(チェックをすと表示されます)
<input checked="" type="checkbox"/>	筑波大学 (新JISHA方式)	本法のリスクアセスメント実施 (希望) 者に実行ファイル配布	Ⅲ&S
<input type="checkbox"/>	日本化学工業協会 (ECETOC TRA)	http://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top	(チェックをすと表示されます)
<input type="checkbox"/>	その他	(チェックをすと表示されます)	(チェックをすと表示されます)

責任者確認状況 未確認

※現時点で、報告書は[未確認]になっています。

化学物質責任者は、リスク低減策について次の枠内の1から6までの事項を参考に検討して、以下に記入して下さい。

リスク低減策

出来るだけ少量を使用し、反応終了後の反応残留物などは適切に廃棄処理します。

研究目的の遂行上、対象化学物質を直ぐに不使用や代替品に変えることは出来ません。なお、局所排気装置の使用や保護具の着用を徹底します。今後、実験計画を見直す際に実験手法の見直しや代替品への転換などを検討します。

⑳ リスク低減策について、検討内容の実施状況を記入して下さい。

リスク低減策の実施内容

リスクアセスメント実施結果は、同様に取り扱う者に連絡・周知します。

キャンセル 一時保存する 保存する

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑪

⑫ メニューから[報告書確認]をクリックして、検索対象から[確認済みの報告書]をチェックすると、上段の報告書、下段に報告書確認状況が表示される。

The screenshot shows a web browser window displaying the '報告書確認' (Report Confirmation) page. The page is divided into two main sections: '上段' (Upper Section) and '下段' (Lower Section).

上段 (Upper Section): This section contains a detailed report form for a specific assessment. The form is divided into several sections:

- 報告書ID:** 25
- 報告書作成日:** 平成29年5月16日
- 事業場名:** (t)津島
- 部局名:** (t)理学部
- 化学物質管理単位の名称:** (t)宮崎研究室
- 化学物質利用(リスクアセスメント実施者):** 氏名: 宮崎 隆文
- 化学物質管理責任者:** 氏名: 宮崎 隆文
- 作業場所:** 建物名: (t)2号館, 室名: (t)102
- 局所排気設備の有無:** 無
- 化学物質名:** テトラヒドロフラン (Tetrahydrofuran), CAS No.: 109-99-9
- リスク評価対象物質の使用作業名:** TTFへの付加反応-a-0001
- 使用開始日:** 平成29年5月29日
- SDS確認の有無:** 有
- 局所排気設備使用の有無:** 無
- 保護手袋使用の有無:** 無
- 安全眼鏡着用の有無:** 有
- 作業環境測定の実施(管理区分):** 1
- リスクアセスメント実施手法:** 厚生労働省 (ILO 100T), http://anzeninfo.mhlw.go.jp/ras/user/anzen/kag/ras_start.html
- 判定:** 1・S
- 責任者確認日:** 平成29年5月16日
- リスク低減策:** 出来るだけ少量を使用し、反応終了後の残留物等は適切に廃液処理します。
- リスク低減策の実施内容:** リスクアセスメント実施結果については、同様に取り扱う者に連絡・周知する。

下段 (Lower Section): This section contains a table showing the confirmation status of the report.

氏名	確認状況	確認日
宮崎 隆文 (責任者)	確認済	平成29年5月16日
秋吉 延崇 (責任者代行)	未確認	
寺尾 貴博	未確認	
明石 高太郎	未確認	

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑫

⑬ 報告書は[報告書様式でPDFファイル]として、外部出力が可能です。

7件中、1件目を表示中。

検索画面へ 報告書様式で出力(PDF) アーカイブする 前へ 次へ

報告書内容

報告書ID	25	報告書作成日	平成29年5月16日	
事業場名	(t)津島	部局名	(t)理学部	
化学物質利用(リスクアセスメント実施)者	氏名	化学物質管理単位の名称	(t)宮崎研究室	
化学物質管理責任者	氏名	宮崎 隆文	宮崎 隆文	
作業場所	建物名	(t)2号館	局所排気設備の有無	無
	室名	(t)102		
化学物質名	テトラヒドロフラン	CAS No.	109-99-9	
Name	Tetrahydrofuran	使用開始日	平成29年5月29日	
リスク評価対象物質の使用作業名	TTFへの付加反応-a-0001	局所排気設備使用の有無	無	
SDS確認の有無	有	安全眼鏡着用の有無	有	
保護手袋使用の有無	無			
作業環境測定の実施(管理区分)	1			
リスクアセスメント実施手法		判定		
厚生労働省(ILO 100CT)	http://anzeninfo.mhlw.go.jp/ras/user/anzen/kag/ras_start.html	1・S		
責任者確認状況	確認済	責任者確認日	平成29年5月16日	

リスク低減策

出来るだけ少量を使用し、反応終了後の残留物等は適切に廃液処理します。

リスク低減策の実施内容

リスクアセスメント実施結果については、同様に取り扱う者に連絡・周知する。

報告書確認状況

化学物質リスクアセスメント報告・確認システム⑬

化学物質のリスクアセスメント実施報告書

【平成29年5月16日実施】

事業場名	(t) 津島	部局名	(t)理学部	化学物質管理単位の名称	(t)宮崎研究室
化学物質利用(リスクアセスメント実施)者	氏名		宮崎 隆文		
化学物質管理責任者	氏名		宮崎 隆文		
作業場所	建物名	(t) 2号館			
	室名	(t)102	局所排気設備の有無	無	
化学物質名	テトラヒドロフラン			CAS No.	109-99-9
Name	Tetrahydrofuran				
リスク評価対象物質の使用作業名	TTFへの付加反応-a-0001		使用開始日	平成29年5月29日	
SDS確認の有無	有		局所排気設備使用の有無	無	
保護手袋使用の有無	無		安全眼鏡着用の有無	有	
作業環境測定の実施(管理区分)	1				
リスクアセスメント実施手法	判定				
厚生労働省 (ILO ICCT)	1・S				

リスク低減策

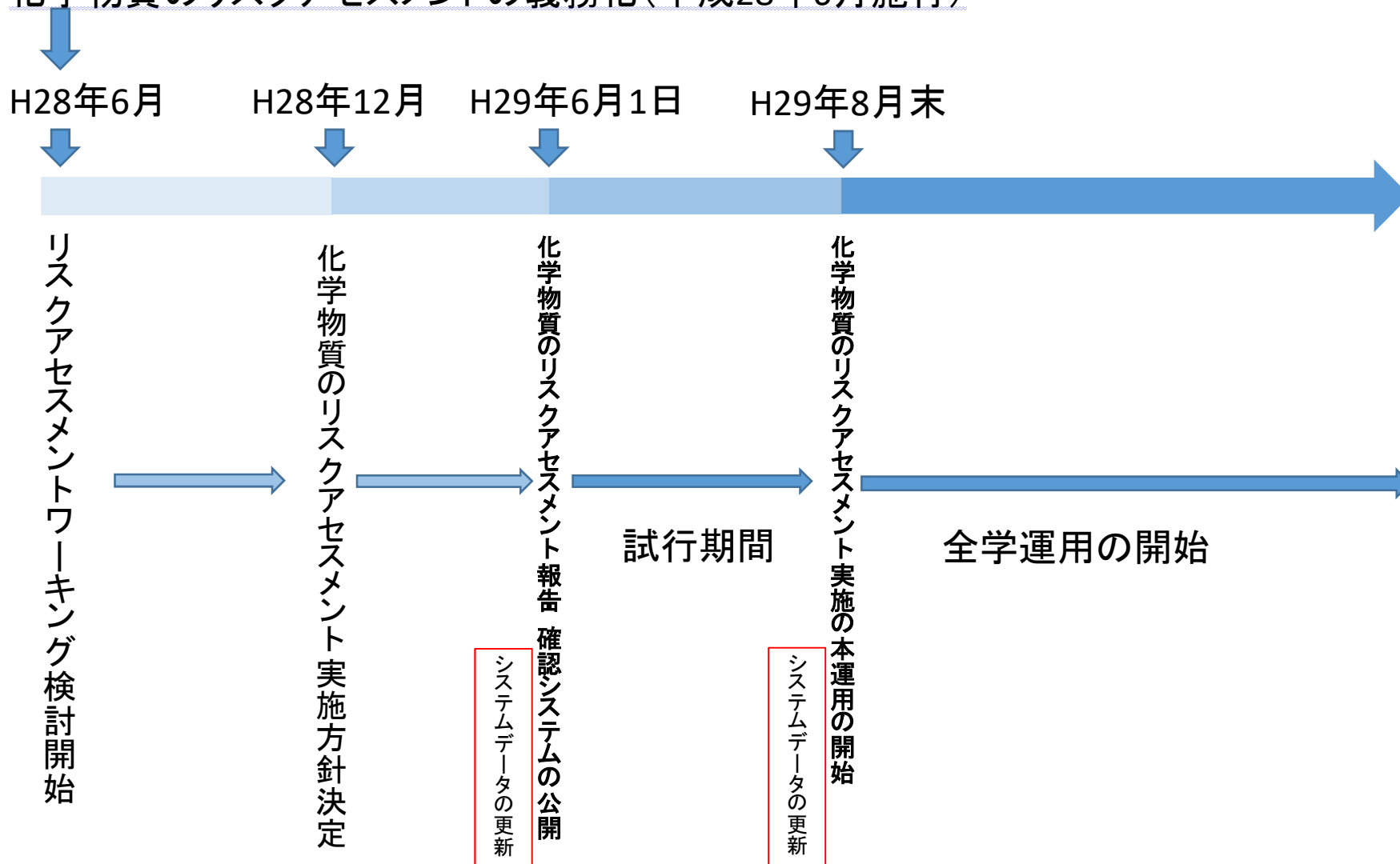
出来るだけ少量を使用し、反応終了後の残留物等は適切に廃液処理します。

リスク低減策の実施内容

リスクアセスメント実施結果については、同様に扱う者に連絡・周知する。

化学物質リスクアセスメント実施報告・確認システムによる報告書の提出等の全学運用開始および試行期間

化学物質のリスクアセスメントの義務化(平成28年6月施行)



化学物質リスクアセスメント報告・確認システムに関する
ご質問やご要望は、以下のサイトからお願い致します。

安全衛生推進機構HP <http://d-eshi.anei-k.okayama-u.ac.jp/>

almi002.ouadm.okayama-u.ac.jp x 岡山大学安全衛生推進機構 x

d-eshi.anei-k.okayama-u.ac.jp

安全衛生推進機構
Safety & Health on Campus
新しい視点で大学の安全衛生と教育研究環境の向上を推進する

TEL.086-251-1809
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中1-1-1

トップページ 機構について 活動報告 A・I 調査票 お問い合わせ 大学等の事故情報

教育研究を支える安全衛生
大学の安全衛生環境の向上

安全衛生推進機構のホームページへようこそ

総閲覧数：16917

岡山大学では、社会発展を目指した最先端の研究や優秀な人材輩出のため、さまざまな教育研究活動を行っています。安全衛生推進機構では、大学構成員の安全衛生環境の向上を推進するため、安全衛生に関する情報発信や安全衛生活動計画の企画・立案して、学内の11学部および7研究科、各種の専門センターと連携して協働します。

お知らせ

化学物質リスクアセスメント(概要・説明) (2017年05月16日)

化学物質のリスクアセスメント
お問い合わせ

化学物質のリスクアセスメント
Q & A

化学物質のリスクアセスメント
報告・確認システム

岡山大学

WebとWindowsを検索

10:21
2017/05/19